

学校運営における各分掌・学年・教科の「取組状況と数値結果」と「評価」

評価A：90%以上の達成度 評価B：70%以上 評価C：70%未満

	主な取り組み	評価	取り組み状況と数値結果
学 習 指 導	<p>① 現役で難関国立大学等を含めた国公立大学や難関私立大学等の進学実現に必要なとされる学習の質と量を確保する。</p> <p>② 本校のグランドデザインを基に編成した、新教育課程を適正に実施する。</p> <p>③ 総合的な探究の時間の充実を図る。</p> <p>④ 理数教育重点校として、理数に係る高度な探究活動及び教科等横断的な学習の充実を図る。</p> <p>⑤ 高い水準の授業実施・確保のため、学力スタンダードの活用等、工夫してカリキュラム・マネジメントを実施し、学校として組織的に授業力・指導力向上、学力向上に取り組む。</p> <p>⑦ データ等を活用し、必要な指導を確実に実施しながら、入学時の学力の維持・向上を基本目標に全教職員がひとつのチームとして取り組む。</p> <p>⑧ 英語教育研究推進校として、生徒の使える英語力の向上を図るため、特に「聞く」、「話す」に重点を置きながら英語の4技能をバランスよく育成するため、きめ細かい指導を行う。</p> <p>⑨ 各教科の授業だけでなく、部活動及び行事等の教育活動全般を通して、オリンピック・パラリンピック教育について、「学校2020レガシー」として設定し、適切に実施する。</p> <p>⑩ デジタルを活用した教育の充実のため、生徒一人1台端末の導入に伴い、端末を十分に活用できる学習活動を計画し、実施する。</p>	A	<p>&lt;国語&gt;</p> <p>1年次の読解力・表現力向上をめざし、漢字年【25】回等、計画的組織的に実施する。新書と小説等を読み、要旨や感想をまとめたものの提出を年【7】回行う。また、新書と新聞記事を資料として意見文を書き、発表する。文章を多く読ませ、応用演習問題集に計画的に取り組みせ、文法小テスト年【6】回行った。</p> <p>2年次、漢字テスト年【25】回を年間計画で実施し、語彙力、応用力を伸ばす。また、年間計画で新書を読み、読書ノート提出を行う。年【8】回。古語テスト、句法テストを年間【25】回実施。付属語の徹底理解を図るため小テストを年間【5】回実施した。</p> <p>3年次、現代文の読解演習問題に定期的に取り組み、活用する。年【14】回。基礎基本を単語、句法テスト年【18】回で確認しながら、古文・漢文問題演習を計画的に実施し（年【30】回）、総合力の向上を図った。</p> <p>&lt;地理歴史・公民&gt;</p> <p>① 現役で難関国公立大学等を含めた国公立大学や難関私立大学等への進学実現を可能にするため、長期休業期間を中心とした補習・講習を全学年で実施し、【20】講座以上設置した。</p> <p>&lt;数学&gt;</p> <p>④ 理数教育重点校委員会を中心に、理数に係る探究活動等において探究プロセスを主体的に行う取組を確立するとともに、数学、理科、情報などの教科等横断的な学習方法、指導方法及び評価方法等の研究開発に取り組んだ。また、各学年に応じた統計教育を推進した。</p> <p>⑦ 実力テストの結果分析を実施し、分野ごとの分析を行い、講習を企画し、日ごろの授業に生かして苦手分野を克服させる指導を実施した。</p> <p>&lt;理科&gt;</p> <p>(物理)</p> <p>① 3年生の11月までに教科書を終え、10回の大学入学共通テスト（以下共通テストと表記）対策の問題演習・解説を行い、生徒の希望進路実現のため、基礎学力の充実と応用力の確立を図った。</p>

	主な取り組み	評価	取り組み状況と数値結果
学 習 指 導	(前ページ続き)		<p>② 新教育課程で新しく導入される1年生の物理基礎について、生徒の学力伸長に応じて適正に取り組んだ。</p> <p>(化学)</p> <p>① 3年生では、共通テスト対策の演習を10回以上行った。さらに、個別学力試験に対応した演習を行い、得点力のアップを目指した。共通テストでは、全国平均点プラス10%以上の校内平均点は達成できなかった。</p> <p>(生物)</p> <p>① 共通テスト講習を5回2セット行い、共通テスト対策問題集を3冊以上仕上げた。</p> <p>④ 理科課題研究において他教科との連携を図りながら適正に実施した。</p> <p>&lt;保健体育&gt;</p> <p>⑨ 1年保健においては、オリンピックやパラリンピックの成り立ちについて学習した。</p> <p>⑩ 保健の授業において、自らの健康や生活に関する内容で、特に実験や実習を中心に授業を展開した。2年次では他教科と連携した研究発表会に向けてICT機器や個人端末等を活用した探究活動を行い年度末に実施した。1年次では個人端末を活用し2年次の研究発表に向けたグループ学習や調べ学習等を実施した。</p> <p>&lt;英語&gt;</p> <p>②1 学年論理・表現では、プレゼンテーション技術の習得と合わせて、英語による論理的なプレゼンテーション課題を各学期に【複数回】行い、個人・グループにおいて行う技能が向上した。</p> <p>⑧ GTEC 検定版において、受験者数に対し、A2に達しなかった生徒はわずかに1名であった。4技能トータル平均は887.4点から906.7点に上昇した。</p> <p>⑨オリンピック期間中、期間後の2年間に渡り行った国際交流活動は、今年度もビデオレターの送付等によって継続している。またコロナ過の出口が見え次第、人的交流も再開する目途である。</p> <p>&lt;&lt;教務&gt;&gt;</p> <p>② 2年次までの文理共通履修の令和4年度及び令和5年度入学生(54及び55期生)の新教育課程の実施に向けて、教育課程委員会手動の基、3年間の必履修科目が決定し、選択科目の履修フローや進路別の履修モデルを作成した。</p> <p>⑤ 年間授業数は、1年:932、2年:893、3</p>

	主な取り組み	評価	取り組み状況と数値結果
学 習 指 導	(前ページ続き)		<p>年：709（単位時間）である。また、月に1度以上、職員会議のため水曜日は45分授業となったことや、一斉委員会、一斉部会、行事のため40分授業となることがあり、1000単位時間の確保は毎年できない状況であった。次年度は、50分授業を可能な限り崩さず、例年の短縮時程を取りやめるよう計画しているため、例年よりも実授業時数が増加する見込みである。</p> <p>小テストや課題等をバランスよく実施し、基礎学力の定着を図った。</p> <p>学習目標の達成状況を各教科で検証させた。また、大学入試改革に伴う高等学校基礎学力テストの動向を踏まえ、学力スタンダードの活用と作成を適切に行い学習内容の確実な定着に努めた。</p> <p>《生活指導》</p> <p>部活動における大会参加・運営、行事の企画・運営等を通して、オリンピック・パラリンピック教育を推進した。</p> <p>《進路指導》</p> <p>① 長期休業日の弾力的運用と土曜授業により年間の総時数1000単位時間を確保した。</p> <p>長期休業期間における補習・講習を全学年で実施し、【171】講座設置した。</p> <p>⑦ 実力テストの結果分析を行った。52期生の学力分析を行い、過去3年間のデータの比較を行った。54期生の指導に関しては情報収集等を通して計画的に行った。また、各学年の実力テストの定点観測を行い、過去回との比較・各学年の過去学年との比較を行い、分析した。分析会への参加を求め、教職員相互での意見交換の場を設置した。</p> <p>《探究》</p> <p>③ 1年次から3年次までの総合的な探究の時間を計画的かつ系統的に指導し、生徒の思考力・判断力を伸ばすとともに、自ら課題を設定し、その課題解決を図る力を醸成した。</p> <p>1年次の「総合的な探究の時間」における「人間と社会・体験活動」を企画した。東京都の自立支援プログラムを利用した大学生との交流体験や模擬投票を通じた主権者教育や、大学訪問を実施した。また、探究活動においては一般社団法人SFCフォーラムと連携をして論理コミュニケーション公式シラバスを実施した。</p> <p>2年次の「総合的な探究の時間」では、探究活動を実施する。前半はグループ探究を実施し、後半</p>

	主な取り組み	評価	取り組み状況と数値結果
学習指導	(前ページ続き)		及び3年次の個人探究につなげていくとりくみを実施した。 3年次では「総合的な探究の時間」における探究活動を企画し個人探究の仕上げを行った。探究活動によって生徒が自身の可能性を発見し、進学意欲の向上にもつなげられるよう全教員で探究活動を支援した。 ④ 理数教育重点校推進委員会及び探究部を中心に、理数に係る探究活動等において探究プロセスを主体的に行う取組を確立するとともに、数学、理科、情報などの教科等横断的な学習方法、指導方法及び評価方法等の研究開発に取り組んだが、途中である。
進路指導	① 難関国立大学等を含めた国公立大学や難関私立大学等をはじめ、進学希望大学への現役合格を目指す。  ② 統一のとれた組織的な進路指導を実施する。	A	《進路指導》 ① 共通テスト5教科受験者数【179】名。 共通テスト5教科7科目の総合得点8割【11】名。 旧帝大を含む難関国立大・医学部現役合格【11】名。 上記大学を含め、国公立大現役合格【82】名。 難関私立大等現役合格【69】名。 難関国立大学・難関私立大学への現役合格達成可能な生徒の抽出と第一志望貫徹を助言した。1学年からの学力テストの結果分析を行い、難関国公立大学への現役合格が可能である生徒へ受験を勧め、受験者数の増加を目指した。国立大学の教育環境の良さを低学年にも知らせ、保護者会等の機会に、保護者へも知らせる。地方を含めた国公立大学の情報を生徒・保護者に提供した。基本的には生徒本人の志望を高く、さらに向上していこうとする意欲をもたせる指導を優先させ、生徒個々の志望にそった進路指導を実施した。 ② 学校として指導する進路指導の内容等、基本的なことは進路指導部が進路シラバスにまとめ、全体の進行管理や検証を行った。データを活用した組織的で計画的で確かな進路指導を推進した。 実力テストを組織的に実施した。各学年での実施形態ではなく、学校として統一のとれた実施をしている。各学年における実力テストの目的を明示している。進路指導部は学年との連携を図りながら、学力テストが生徒の学力向上に効果的に機能するよう、データ分析等、担任が個別指導をしやすい環境を整えた。 進路指導部と学年・教科等の連携強化を図り、全教職員が課題発見に努め、常に全員で課題に正対し、的確に解決しながら進路指導に取り組んだ。

	主な取り組み	評価	取り組み状況と数値結果
進路指導	<p>(前ページ続き)</p> <p>③ 生徒の可能性を最大限生かす指導を全員で継続的に行う。</p> <p>④ 進路実現に必要な自律的に学ぶ力の育成・向上、学習習慣確立等のため、適切な課題の継続的な学習や自分に必要な学習を自ら行うことができる力の向上等に必要指導を具体的に実施する。定期的に調査等を実施し、面談等で繰り返し指導する。また、部活動顧問等からも指導する。</p>		<p>③ 「入れる大学ではなく、入りたい大学への合格の支援」、「最後まで第一志望をあきらめさせない指導」を実現した。生徒個々の進路希望や学力の実態についての情報を、学年・進路指導部・各教科及び全教員で共有し、具体的で個別的な指導につなげた。</p> <p>「学力分析会(全体会)」を各学期に実施し、分析結果を日々の学習指導・進路指導に反映させた。</p> <p>保護者会・三者面談・進路便りを活用し、生徒・保護者の意識改善を図り、安易に流れることのない、生徒の可能性を伸張させる指導を全教員が行うよう体制を整えた。</p> <p>④ 家庭学習時間は、以下の時間を目標とした。</p> <p>高1：平日3時間、休日4時間、 高2前半：平日3時間、休日5時間 高2後半：平日4時間、休日6時間、 高3：平日5時間、休日8時間</p> <p>実際の調査結果は以下の通りである。 (高3については6月実施の調査結果データのみ)</p> <p>高1：平日1.9時間、休日3.1時間、 高2前半：平日1.3時間、休日2.2時間 高2後半：平日1.6時間、休日2.4時間、 高3：平日2.3時間、休日3.4時間</p> <p>調査時期の設定により時間の変動が影響されることもあるので一概には言えないが、学習時間の少なさは傾向として顕著である。逆にスマホの使用時間は増加傾向にある。各教科における家庭学習の課題などについて検討を進める必要がある。</p> <p>《1学年》</p> <p>日々の学校での授業を重視することによって、予習復習を中心とした家庭学習を習慣化させた。特に英・数・国の三教科については、2年次までの早期の習熟を目指すように指導し、学力向上に努めた。実力テストの分析を行い、外部講師を招いた分析会を実施した。入学時の学力を測定し、今後の指標になりうる資料とした。実力テストの分析によって、上位者の抽出を行った。</p> <p>「総合的な探究の時間」では一般財団法人「SFCフォーラム」の「論理コミュニケーション公式シラバス」を採用し、生徒の論理的思考力や論理的な表現力を育成し、検定を【3】回実施することによってその達成度を測った。大学訪問を全生徒対象に実施した。</p>

	主な取り組み	評価	取り組み状況と数値結果
進 路 指 導	(前ページ続き)		<p>《2学年》</p> <p>「総合的な探究の時間」では「哲学対話」を実施し「グループ探究」から「個人探究」につなげた。「分野別進路講演会」で大学からの出張授業を全生徒対象に実施した。</p> <p>《3学年》</p> <p>(1) 「総合的な探究の時間」では「個人探究」を実施し、4000字の論文を完成させた。</p> <p>(2) 日々の授業を大切に、また協力しながら授業を作る姿勢や、課題に真剣に取り組む態度を養い、予習復習などの家庭学習の習慣を身につけさせた。</p> <p>(3) 模擬試験に対する事前・事後指導を通して、実践的な学力の向上に努めた。</p> <p>(4) ガイダンス等を利用し、望ましい職業観をもたせ、進路実現に努めた。</p> <p>(5) 学校・家庭での生活時間調査などを通じ、時間の有意義な使い方を考えさせ、逆算して自分の計画をつくるなどの自律の意識を高めた。</p> <p>(6) 個人面談（三者面談）を行い、家庭とも連携して、進路希望実現に向けての意識を高めた。</p> <p>(各年次共通)</p> <p>保護者との進路に関する情報の共有を図り、連携しながら生徒の希望の進路実現を目指した。</p> <p>国公立大学及び私立大学教員や各分野での専門家を招き、学問の面白さや大学の特色などについて講演を行い、学問や大学に対する生徒の関心を高めた。</p> <p>&lt;国語&gt;</p> <p>① 長期休業中の講習を年間【20】日以上行った。入試分析を高校3年間の学習指導に具体的に生かした。</p> <p>② 国語科全体として、指導資料や指導法等に関して、授業参観や教科研修会などを通して、情報交換・共有を行った。</p> <p>&lt;地理歴史・公民&gt;</p> <p>学共通テストにおいて、地理は全国平均点【+15点】以上、世界史は全国平均点【+15点】以上、日本史は全国平均点【+15点】以上、現代社会は平均点【75点】以上、政治経済は平均点【75点】以上、倫理は平均点【80点】以上を目指し、いくつかの科目で達成した。</p>

	主な取り組み	評価	取り組み状況と数値結果
進路指導	(前ページ続き)		<p>&lt;数学&gt; 2022年度共通テストの分析に基づき、今までの対策を見直し、文章読解に重点を置いた演習を工夫した。 共通テスト受験者全員に、12月から問題集を用いた実践演習を行った。</p> <p>&lt;理科&gt; ① 現役で難関国公立大学等を含めた国公立大学や難関私立大学等への進学実現を可能にするための長期休業期間を中心とした補習・講習を実施した。</p> <p>&lt;保健体育&gt; ④ 体育系学部志望者には共通テスト後の1か月間実技試験に向けた技術指導等を行い、進路実現をサポートした。</p> <p>&lt;芸術&gt; ④ 芸術系学部志望者には実技試験に向けた技術指導等を実施し、進路実現をサポートした。</p> <p>&lt;英語&gt; ④ 基礎学力と学習習慣の確立を重視しながら、生徒の難関国公立・難関校への進学実績の希望を実現できるよう、教科における日頃の指導体制を整える。他方、講習等を効果的に活用しながら、共通テスト対策及び各大学の個別試験に向けた記述問題への対応等を強化し、生徒の個別学習ニーズを支援した。</p>
生活指導	<p>① あらゆる教育活動を通じて、全ての教員がぶれることなく、「当たり前にするべきこと」を「当たり前のこと」として徹底して指導し、基本的な生活習慣を確立させる。</p> <p>② 高い社会規範意識の涵養を図り、自他を認め、互いに尊重する人間尊重の精神と規範意識を育む。</p>	B	<p>《生活指導》</p> <p>① 自由な校風や木もれ陽祭の華やかな雰囲気にあこがれて入学した生徒が多いため、規範意識の欠如や周囲への配慮に欠けた自己満足的な行動がみられることがある。様々な活動を通して、基本的な生活習慣の確立を図った。 木もれ陽祭全般については、木もれ陽運営委員会を中心とした位置づけを明確にし、指導の体制を今後継承しうるものとして確立していく。下部の実行委員会との連携、活性化を図り、団チア会との連携を深める。また、次世代の運営委員の中心となる一年生への継承、育成を考慮した組織作りを行った。</p> <p>② 体育祭、合唱祭、文化祭においては、より生徒の活動を活性化させ、達成感を得られるための具体的な改善を行った。 体育祭、合唱祭、文化祭においては、より生徒の活動を活性化させ、達成感を得られるための具体的な改善を行った。 ・文化祭 飲食などの指導のあり方、舞台設置や警備などの分担の見直し、継承した。</p>

	主な取り組み	評価	取り組み状況と数値結果
生 活 指 導	<p>(前ページ続き)</p> <p>③ 交通ルールを守り、自転車事故【ゼロ】を達成するとともに、他者への挨拶や礼儀を重んじ他者に優しい態度を育成して地域の共生を図る。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育祭 係分担の連携、リハーサルなどスムーズな運営体制を確立させた。</li> <li>・合唱祭 課題曲の検討 会場変更に伴う運営分担の見直しを図った。</li> <li>・木もれ陽会計の引き継ぎを行った。</li> </ul> <p>③ 駅方面からの自転車登校生徒が多く、道幅は狭く自動車や通勤自転車・歩行者、通学児童が多数交錯している状況である。このため、自転車による事故・周辺住民からの苦情が多い。自転車損害賠償保険への加入を勧め、交通安全指導の徹底を図った。</p> <p>部同連を通じての自転車マナーの徹底など、生徒による自律的な活動を活性化した。</p> <p>《1学年》</p> <p>授業規律を徹底するため、教室移動時や実技科目から次の授業への移行等、円滑に行えるよう指導した。自転車のマナーについて、日々のホームルーム等で指導し、事故を防止し、登下校時の他者に配慮した行動ができるように指導した。挨拶を励行し、礼儀を重んじ、他者に配慮し、集団での行動が自律的に円滑に行えるよう指導した。</p> <p>《2学年》</p> <p>学年集会等を通じて自者目線だけでなく他者目線での物事を見ることができるよう指導し、規範意識を高めた。</p> <p>《3学年》</p> <p>最高学年としての自覚と誇りを持ち、各方面でリーダーシップを取り、地域・社会の理解が得られる行動が取れるよう働きかけた。</p>
特 別 活 動	<p>① すべての土台となる健全な主体性と自律的な生活管理能力の育成、学校のルールに基づいた特別活動、部活動の推進・充実を図る。</p> <p>② 部活動保護者を適宜実施し保護者と顧問の連携を深め、生徒の主体的活動を支援する。</p> <p>③ 経営企画室との連携のもと部費を適正に執行・管理する。</p>	A	<p>《生活指導》</p> <p>① 部活動は盛んであり、朝練・昼練にも熱心に取り組む生徒が多い。しかし、しばしば公共性の意識の低下が見られ、下校時間の乱れ・部室や活動場所・更衣室等の私物化・清掃状況の低下・ごみの放置等の問題を抱えている。特別活動・部活動を通して自律的な生活管理能力を育成した。</p> <p>② 部活動保護者会を実施し、部活動年間活動計画に基づき、安全管理に配慮した上で主体的活動を支援した。</p> <p>③ 各学期において、年間3回にわたり現金出納簿の管理と預金通帳の確認を行う。経営企画室とともに、生徒会費の適切な運用を目指し、年間で会計に係る事故ゼロを目指した。</p>



	主な取り組み	評価	取り組み状況と数値結果
健康づくり	<p>① 全教職員により、日常のあらゆる教育活動において生徒の様子を観察し、情報の共有と迅速な対応を行うことで、いじめの早期発見や自殺予防に全力で取り組む。</p> <p>② スクールカウンセラーと連携し、教育相談委員会を定例開催するとともに、個別に支援が必要な生徒については、全教員で情報を共有し、きめ細かい指導を実施する。</p> <p>③ 基本的な生活習慣の定着と授業、部活動、行事等で体力向上に向けた取組を充実させ、体力テストにおける全国項目で全国平均値以上を達成する。</p>	A	<p>《保健環境》</p> <p>① 各定期考査の時期において、生徒に関するアンケートを全教員に実施した。少しでも気になる生徒の情報を提供してもらい、保健室およびスクールカウンセラーは情報をうけて、迅速な生徒対応を行った。スクールカウンセラーの出勤日には職員室に常駐してもらい、教員がいつでも気軽に相談ができる体制を継続する。コロナウイルス感染症対策を生徒自らが実践するために、各委員会で主体的に活動した。</p> <p>② 教員とスクールカウンセラーの連携を深めた。さらに職員会議等でカウンセラーからのアドバイスの機会を設定した。また、年5回の教育相談委員会では、問題のある生徒の把握に努めるとともに、問題解決に向けて学校全体の取り組み方の話し合いを進めた。</p> <p>《生活指導》</p> <p>② 担任・スクールカウンセラーとの連携を高め、また、年5回の教育相談委員会により問題のある生徒の把握と問題解決を図った。そして、その情報を教員間で共有するために、職員会議や共有フォルダ等を活用して、情報の周知を行った。</p> <p>&lt;保健体育&gt;</p> <p>③ 体育の目標に「全力・スピード・働きかけ」を掲げ、集団への働きかけを重視し、課題解決にむけての取り組み、人間関係の円滑化やリーダーの育成を図った。また準備運動で筋力トレーニング・コーディネーショントレーニング・柔軟体操を実施した。体力テストの平均数値が東京都で上位に位置するところを目標とし達成した。</p>
募集・広報活動	<p>① ホームページのリニューアルに伴い、概ね毎週1回以上更新し、本校のあらゆる教育活動を発信する。学校案内についても、より本校の魅力を掲載できるように内容の見直し等を行う。</p> <p>② 学校説明会・学校見学会、塾対象説明会、入学相談会等の内容を工夫するとともに、募集・広報活動を積極的に実施する。</p>	A	<p>《総務部》</p> <p>① ホームページについてはほぼ毎週、新しいニュースを更新し、本校の学校活動、魅力について発信し続けることができた。学校案内については、今年度は1学期の学校公開・学校紹介に間に合うように制作し、来校者に前年度のもとを渡すようなことはせずにすんだ。内容については前年のものより、格段によいものができた。</p> <p>② 今年度は3年ぶりに体育館での学校紹介、学校説明会を実施することができた。以前の学校説明会を知っている担当はほぼいなかったが、良い内容のものを行うことができた。2学期の学校説明会での部活動紹介・グループ探求のポスター掲示は秀逸な企画であった。</p>

	主な取り組み	評価	取り組み状況と数値結果
学 校 経 営 ・ 組 織 体 制	<p>① 教科会を年10回以上実施し、教科ごとに設定した目標値を指標とした定点観測等を行い、教科として組織的、計画的に授業及び学習指導等の改善を実施しながら、生徒の学力向上に自律的、戦略的に取り組む。</p> <p>指標：(1)家庭学習時間、(2)授業評価の肯定的評価の割合、(3)共通テスト全国平均点上回り率、(4)共通テスト得点8割以上の人数、(5)模試等の平均点偏差値、(6)模試等の偏差値の通減率、(7)模試等の偏差値の分布率の変化等</p> <p>② 考査問題のラベリング化、CAN-DO リストの活用等を実践し、継続的に生徒の学力達成度を確実に把握し、各生徒の学力状況に応じた指導を的確に行う等、教科として組織的、計画的に学力向上に向けて取り組む。</p> <p>③ 教科会、学年等で検討する課題や資料等の作成・提供、教科単位の学力分析会や研修会の実施等の進行管理等は、学力向上委員会が行い、生徒の学力向上及び授業力向上に向けて組織的に取り組む。</p>	B	<p>《1 学年》</p> <p>家庭学習の習慣を定着させ、部活動や行事との両立を計画的に図れるよう指導した。</p> <p>《2 学年》</p> <p>学年会を通じて生徒の情報等を共有し、学力や学校生活等の状況を把握しながら生徒一人ひとりに対応した指導を行った。</p> <p>年【2】回以上の個人面談を実施し、生徒の進路実現等、学校生活の補佐に取り組んだ。</p> <p>《3 学年》</p> <p>学年会を週1回、学年打ち合わせを毎日行い、情報共有し指導の一貫化を求めることができた。</p> <p>&lt;国語&gt;</p> <p>① 教科会を年10回以上実施し、科目ごとに設定した目標を定期的に点検し、組織的、計画的に授業及び学習指導等の改善を実施しながら、生徒の学力向上に取り組んだ。</p> <p>&lt;地理歴史・公民&gt;</p> <p>① 教科会を年【10回】実施し、科目ごとに設定した目標を定期的に相互点検し、組織的かつ計画的に授業・テスト問題等の改善を実施しながら、生徒の学力向上に取り組んだ。科会開催時に定期テストや模擬試験の分析をおこない、それを各科目の指導に反映させた。</p> <p>② 生徒の学力向上には授業改善が不可欠であると考えるため、他校の研究授業や予備校の研修会に積極的に参加し、成果は科会を通じて共有した。</p> <p>&lt;数学&gt;</p> <p>① 教科会を年10回実施し、科目ごとに設定した目標を定期的に点検し、組織的、計画的に授業及び学習指導等の改善を実施しながら、生徒の学力向上に取り組んだ。共通テストにおいて、得点率8割以上の人数(数学Ⅰ・A)34人、(数学Ⅱ・B)54人を達成した。模試等の平均点偏差値60以上の人数160人を目標とし指導した。</p> <p>② 共通テストに対応した出題形式を研究し、考査問題の作成・実施した。毎回の模試において分野ごとの学力達成度を確実に把握し、生徒の学力向上に向けて、教科として組織的、計画的に取り組むことができた。</p> <p>③ 教科会で検討する課題や資料等の作成し、教科としての課題を共有した。</p>

	主な取り組み	評価	取り組み状況と数値結果
学 校 経 営 ・ 組 織 体 制	(前ページ続き)		<p>&lt;理科&gt;</p> <p>教科会を年11回実施し科目ごとに設定した目標を定期的に点検し、組織的、計画的に授業及び学習指導等の改善を実施しながら、生徒の学力向上に取り組んだ。</p> <p>(物理)</p> <p>① 1、2年生では年間15回の実験・観察を行った。3年生では、理系大学への進学を念頭に、物理学の理論を踏まえた授業を行った。</p> <p>② 単元ごとの小テストを実施し、必要に応じて個別指導を行う。定期考査では、大学入試問題を取り入れて応用力を高めた。</p> <p>③ 3年次の11月までに教科書を終え、10回共通テスト対策の問題演習・解説を行った。</p> <p>(化学)</p> <p>① 単元ごとに小テストを行うことにより学習内容を定着させるとともに化学的な見方、考え方を育てる。コロナ禍と教育課程の変更に伴う授業時間の減少の影響で、年間に実験を10回以上は行えなかった。</p> <p>② 3年生では、共通テスト対策の演習を10回行なった。さらに、個別学力試験に対応した演習を行い、得点力のアップを目指した。共通テストでは、全国平均点プラス10%以上の校内平均点を達成できなかった。</p> <p>(生物)</p> <p>① 年間に実験観察を「生物基礎」は5回、「生物」(2年・3年) および「研究生物」は10回行った。</p> <p>② 共通テスト講習を5回2セット行い、共通テスト対策問題集を3冊以上仕上げた。また、実験や観察、映像教材、新聞、雑誌などの情報源を利用して、生徒にレポート課題を年2回以上提出させた。</p> <p>&lt;保健体育&gt;</p> <p>① 各種目において、個人・グループで目標を設定し、課題を見つけ解決する態度の育成を図った。教科会(年15回)等でそれぞれの目標の妥当性や課題の達成度を評価し改善を実施した。</p> <p>④ 相互授業参観については、それぞれの専門種目の指導法など常に見て学ぶことができるよう意識して実施した。</p> <p>&lt;芸術&gt;</p> <p>①②③ 授業の中でテストを実施、もしくは作品提出による評価の実施。教科会を年5回開くことで、芸術科の取り組みや課題、評価について共通理解を持ち、生徒の実態を踏まえた学力向上に向けて検討し取り組んだ。</p> <p>&lt;英語&gt;</p>

	主な取り組み	評価	取り組み状況と数値結果
学 校 経 営 ・ 組 織 体 制	<p>(前ページ続き)</p> <p>④ 教員の相互授業参観【年3回以上】等、OJTを推進する。誰でもいつでも授業研究等ができる環境を整備する。</p> <p>⑤ ライフ・ワーク・バランスを効果的に推進する</p> <p>⑥ 経営企画室の主体的な経営参画と全教職員の共通理解による事務処理の効率化を図る。</p> <p>⑦ 個人情報の適正な管理をはじめ、服務事故の防止に努める。</p> <p>⑧ 日常の授業での利用及び進路指導部と連携した進路指導での利用を促進し、図書館の利用率の向上に取り組む。</p> <p>⑨ 日常の教育活動において、新型コロナウイルス感染症対策に万全を期しながら、生徒の学習活動、部活動、特別活動の充実を図る。</p> <p>⑩ 学力向上委員会及びICT委員会を中心に、いつでも全教員がオンライン学習を実施できる体制を整え、生徒の学習活動を支援する。</p>		<p>教科会を適正に実施しつつ、定期考査や模試、外部試験等での成果に関する分析を行い、日頃の教育活動に資するよう活用した。英語教育研究推進校事業により実施しているGTECにおいてB1-2以上にランクインする生徒人数の維持・増加を目指す他、実用英語技能検定2級以上の受験を奨励し、その学習を積極的に支援した。</p> <p>④ 相互授業参観週間を年に3回、学期に1回設定することにより、相互の授業力向上を測る。見学シートを活用し、授業に関するフィードバックができるようにした。</p> <p>⑤ 超過勤務の時間を下げるため、会議、委員会の開催を厳選し、時間進行管理を行った。月当たりの平均超過勤務時間を30時間以内としたが課題である。</p> <p>⑥ 職員会議やTAIMSメール等を活用し連絡事項の徹底や業務内容を周知し事務処理の効率化を図った。また、丁寧なヒアリングを行い自律経営推進予算執行率は97.4%であった。</p> <p>⑦ 保有個人情報等取扱基準に基づき、適正な管理を心がけるよう、機会がある度に全体に周知した。また、服務事故防止研修を学期に1回行い、服務の厳正に努めた。</p> <p>⑧ 教科と連携し、継続した読書指導を実施。年間24回授業で利用した。生徒の読書意欲を喚起し、読書を通じた教養や読解力、語彙力、言語能力の育成を図った。 探究的な学習活動に必要な幅広い資料の収集及び提供を行った。生徒の学びをより深めるため、教科と連携したガイダンス等の指導、生徒の必要とする資料・情報の提供を行った。蔵書の充実を計るとともに、授業期間中に毎月1回、図書館広報を発行した。また館内展示、読書ナビなどを充実させることで、生徒の図書館利用を促進した。</p> <p>⑨ 非常時を想定し、出勤できない教職員の割合に応じた業務の精選と役割分担・応援体制の整備を推進した。基本的な感染症対策を徹底し、生徒の安全を最優先にした上で、教育活動を実施できた。</p> <p>⑩ デジタル技術を活用した教育の推進を図った。ICT環境を活用して、オンライン学習を含めた生徒の学習活動の支援を推進した。</p>